

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性を持ち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

【 かしく やさしく がんばる 千寿の子 】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」 Well-Being（幸せ）な学校 ・児童が学ぶことを楽しいと思える学校 ・教職員がやりがい、生きがいを感じる学校 ・保護者が安心して子どもをかよわせたい学校 ・地域に愛され、地域と共に成長できる学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が育まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神を持ち、他者を思いやることができる児童 ・自己実現に向かって、最後まであきらめず努力する児童 ・よりよい生活習慣と、健康・体力の保持増進に努める児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にしたい教育を推進する教師 ・研鑽に励み、児童が学びたい質の高い授業を工夫できる教師 ・人権感覚が高く、服務に対する厳正な態度を持ち、法令を遵守する教師 ・同僚性を大切に、組織人として積極的に協力し成果をあげる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

「おだやかな光と さわやかな風の中で・・・」を基本理念に児童との適度な距離感と「子どもファースト」のアプローチを意識しながら、①ICTの活用を通して「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進、②「質」と「実」を意識したSDGsに係る取組、③安全・安心に配慮しながら「コロナ・ブランク」を解消の3点を柱に教育活動の充実・改善に努めることができた。「学力向上アクションプラン」については、区調査（2～6年）では、通過率が国語 88.0%、算数 87.3%と、目標とした水準を上回り、また、国調査（6年）では、平均正答率の対都平均で国語が+5P、算数が+2Pという結果であった。単元テストの結果からも、知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等、そして、学びに向かう力・人間性等の育成を目指した取組の成果を見て取ることができた。「豊かな心の育成」については、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を推進することができたが、相談機能や情報共有の一層の充実を努めていきたい。「体力・運動能力の向上」については、全体的な低下傾向と二極化傾向が顕著であり、運動機会のさらなる確保と質の向上を学校の重点課題として児童一人一人の「スポーツ志向」を確実に高めていきたい。「健康の増進」については、よりよい生活習慣の確立、さらにはその継続に向けて家庭との連携・協働をさらに強化していきたい。特に、朝晩の歯みがき習慣と運動習慣の確立に努めたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8

1	学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	○	◎	◎	○	○
4	開かれた教育課程の実行			○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）							
A 今年度の成果目標		達成基準 （目標通過率）		実施結果 （通過率結果）		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習の個別最適化と協働性の向上		国語 88.0%、算数 88.0%		国語 86% 算数 86.8%		目標とした達成基準に、わずかに届くことができなかった。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・発展	「思考・判断・表現」の授業づくり	全学年 全教科・領域	各授業 補充的な取組	言語活動の工夫・改善、ICTの積極的な活用、主体的・対話的な学習・活用型学習の充実、「問い」の工夫、校内研究（算数）の教育活動全体へのフィードバック。	①6年国調査（4月）の平均正答率 ②単元テストの「思考力・判断力・表現力」の観点	①国・算ともに都平均を上回る ②国・社・算・理いずれも平均82%以上	①6年国調査 国語都平均＋5P 算数都平均＋6P ②国語 87.5% 社会 84.0% 算数 65.1% 理科 58.6	6学年の平均正答率は都の平均を上回った。 算数、理科の「思考・判断」の力を育てることができなかった。学年による差が大きかった。 基礎・基本の定着の徹底と知識・技能を活用する授業改善を図る。	△

2 継続・発展	基礎的な知識・技能の確実な定着	第1、2年：国・算、第3～5年：国・社・算・理	各授業 補 充 的 な 取 組	S P 表分析の活用（特段の支援が必要な児童と定着の難しい内容の明確化）、授業及び補足的な取組における指導の個別化・多層化の推進、A I ドリルの効果的な活用	①単元テストの平均達成率80%以上の児童 ②区調査問題による定着度確認（2月）の通過率 ③A I ドリルの活用状況	①国・社・算・理のいずれも80%以上 ②国・算ともに82%以上 ③全ての児童が月平均で250問A I ドリルを活用 児童1人あたりの月平均取組数300問以上	①国語83.1% 社会82.0% 算数73.1% 理科72.7% ②国語83.5% 算数81.7% ③区の目標値を達成した児童の割合90.3% （月あたりの平均活用数254.7問）	単元テストにおける平均達成率は80%を超えているが、平均達成率80%を達成した児童の割合は4教科で80%に届かなかった。80%に届かなかった児童への補修や基礎基本の徹底が必要。 A I ドリルの活用については、学級による活用の差が大きかった。今後、学校全体で取り組み方の方向性を徹底する。	○
3 継続・発展	家庭学習の充実	宿題は全学年 自学自習は第2学年以上	家庭	○全学級での提出状況の記録 ○学力向上委員会による取組状況の確認 ○担当者によるA I ドリルの活用状況の確認	①宿題提出率 ②自学自習の定着率 ③家庭でのA I ドリルの活用頻度	①95%以上 ②95%以上 ③全ての児童が週2回以上のペースでA I ドリルを家庭で活用	①宿題90.5% ②自主学习88.1% ③週1回以上のペースで活用していた児童は、学校全体としては、80%を達成していた。	家庭学習は、定着しているが、家庭環境及び家庭事情により、家庭での学習が困難な児童もいる。 家庭との連携を図ると共に、家庭及び自主学習の取り組み方を見直す。	△
4 継続・発展	本に親しむ機会の充実	全学年 全教科・領域 業前・業間・放課後・家庭	原則毎日	図書館行事の計画的な実施（読書貯金、読書月間・特別貸出、読書感想文コンクール、調べる学習コンクール・図書館ボランティアとの連携、図書館支援員の活用・家庭読書の推進、ノートタブレット休み時間の設定、蔵書の充実	①読書量の目標達成者 ②本を読むことが楽しいと感じている児童	①1年60冊、2年70冊、3年80冊、4年3000ページ、5、6年4000ページの達成者90% ②本を読むことが楽しいと感じている児童90%	①読書量の目標達成 1年96% 2年98% 3年94% 4年80% 5年90% 6年79% ②本を読むことが楽しいと感じている児童 1年90% 2年95% 3年92% 4年84% 5年87% 6年75%	週1回の図書の時間、毎月の図書ボランティアさんとの連携、上学から下学年への図書の読み聞かせを実施した。 児童が興味のある本を購入し、教員の研修会でアニメーションを取り上げ、読書指導への理解を深め、児童へ指導を充実させる。 高学年になるにつれ、本を読むことが楽しいと感じている児童の割合が減る傾向にある。	○

5 継続・発展	中学校との接続を意識した英語力の育成	第5、6学年 英語	各授業補足的な取組	教科英語の趣旨を踏まえた4技能をバランスよく育む授業、個別支援の充実、パフォーマンステストの実施、他教科・領域と関連付けた学習	①チェックテスト（年間2回） ②区調査問題を活用した定着度確認（2月） 【6年】	①いずれも達成率80%以上の児童95% ② 通過率90%	①10月89% 2月92.2% ②通過率 91.9%	英語専科の授業を中心に英語の4技能をバランス良く身に付けることができた。 区調査の通過率が昨年度より10%以上向上することができた。	○
6 継続・発展	I C T の効果的な利活用	全学年全教科・領域	各授業補足的な取組	足立スタンダードに基づいた問題解決的な授業におけるI C T機器の効果的な利活用。個別指導・補足的学習・家庭学習等でのA Iドリルの計画的活用、協働的な学習場面の充実。	①授業改善に対する児童の評価 ②A Iドリルを週1回ペースで計画的に活用する教員の割合	①「I C Tを使うことで授業が楽しく、わかりやすくなった」と感じている児童95% ②A Iドリルを計画的に活用する教員100%	①「ICTを使うことで授が楽しくわかりやすくなった」と感じている児童第1回87.3% 第2回87.7% ②AIドリルを計画的に活用する教員100%	児童がTPCを活用する場面を増やすことで、TPCを活用する技能も高まり、TPCを活用することが日常化してきている。 今後、学力に直結した効果的なTPCの活用を考える。	△

重点的な取組事項－ 2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現		①「学校は楽しい」と感じている児童 95% ②「子供は、楽しく学校に通っている」 「教員は、子供の困っていることや 悩みなどを理解し、誠実に対応して いる」への保護者の肯定的な評価 95%	「学校は楽しい」 第1回 90.2% 第2回 92.8% 「子供は、楽しく学校に通ってい る。」第1回 92.3%、第2回 91.7% 「教員は、子供の困っていること や悩みなどを理解し、誠実に対応 している。」 第1回 84.1% 第2回 87.5%	概ね目標とした水準 の児童・保護者が学校 生活について肯定的に 評価していることを成 果と受け止める一方 で、相談機能のさら なる充実を今後の課 題としていきたい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

実態把握・対応の徹底と児童の自主性・主体性の向上	①いじめとして年間150件以上の案件を認知 ②全校での学校生活の改善に係る児童の主体的な取組を年2回以上 ③全学年とも異年齢との交流を1回以上	「可能な限り児童とともに」の徹底、「いじめアンケート」「WE B Q U」の効果的な活用、児童の自主的・主体的な取組の推進、幼保との交流、「いじめ防止・対処授業」の充実	①1月上旬時点でいじめとして115件の案件を認知し、対応した。 ②「いじめ防止集会」の実施。全学級、「なかよし宣言」の作成など児童主体とする活動を行った。 ③全学年が異学年交流を行った。	学校全体で組織的に、児童が安心して生活できるように努めた。 児童の自主的・主体的な取組の機会や内容を、さらに充実させる。異学年交流を通して、児童の自己肯定感を高めた。	○
基本的な生活習慣の定着	①「教員は、子供にあいさつや、返事をする、マナー、きまりを守る大切さを教えている」への保護者の肯定的な評価90%以上	代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携	「教員は、子供にあいさつや、返事をする、マナー、きまりを守る大切さを教えている」への保護者の肯定的な評価 第1回88%、第2回90.7%	概ね目標とした水準を達成できたが、家庭の児童の捉えと、児童自身の自己評価に乖離がみられた。児童一人一人の意識を高め、定着の質を高めていくことが課題である。	○

重点的な取組事項－3		体力・運動能力の向上と健康の増進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
習慣の定着と主体性の向上		体力テストで都平均以上の種目40% 総合評価でAB評価30%以上、 DE評価35%以下	体力テストで都平均以上の種目48.9%、 総合評価でAB評価33%、 DE評価36%	概ね達成基準をクリアすることができているが、全体的な目標数値をさらに向上させたい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
多様な運動機会の場と内容の充実	①「運動が好き・楽しい」と感じている児童95%以上	「体力向上推進プラン」に基づく継続的な取組と情報提供の徹底、「動きの洗練性を高める授業」「協力・協働の意義や重要性を実感できる授業」の工夫	「運動が好き・楽しい」と感じている児童第1回91.9%、 第2回88.4%	運動機会のさらなる確保を行うとともに、体を動かすことの楽しさを味わわせることを重視し、授業だけでなく、集会や休み時間にも楽しさを感じられるよう工夫する。	△

健康な生活習慣の確立	①早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき・運動習慣の定着状況が 90% 以上 ②むし歯の保有者が 10 月の段階で 7 % 以内・2 月の段階で 4 % 以内 ③ 1 月測定時で肥満度 20 以上の児童が 7 % 以下	生活実態調査の実施（年間 2 回）、養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施、家庭・関係機関と連携しての「むし歯ゼロ」の推進。	早寝 66.2%（午後 10 時以前） 早起き 59.9%（午前 7 時以降） 朝ごはん 97.6% 歯みがき 朝 87.4% 夜 98.7%、 運動習慣 69.9% ※体育以外の運動（4 回以上） むし歯の保有者 1.7% 肥満度 20 以上の児童 7.4%	各家庭に年間 2 回のアンケート調査を行ったが、規則正しい生活習慣は家庭によって差があることが分かった。特に就寝時刻や起床時刻、運動の機会については、各家庭の事情による差が表れたと考える。虫歯の保有者は、目標値を達成し、昨年度よりも良い結果となった。	○
------------	--	--	--	---	---

重点的な取組事項－ 4		開かれた教育課程の実行			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の教育活動の可視化・保護者、地域と連携した教育活動の充実		①学校は、教育活動の様子や情報を伝えている 90%以上 ②学校は、子どもの多様な学ぶ機会を大切にしている 90%以上	①学校は教育活動の様子や情報を伝えている。第 1 回 91.7% 第 2 回 91.5% ② 86.9%	多様なツールを活用して、教育活動を外部に発信できた。外部講師を全ての学年で招聘した。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
情報発信の充実	①学校だより、学年だよりを年間 11 回発行する。 ②校長ブログ、学校ブログを年間計 190 回以上更新する。 ③保護者や地域の人々が授業や学校行事を参観する機会を設けている 90%以上	①保護者会を年間 2 回行い、個人面談を 7 月と 6 年生のみ 12 月にも実施する。 ②学校行事の後に保護者にアンケートを取り、充実した教育活動の一助とする。 ③H&S により、情報の共有を図る。	①学校だより、学年だよりを年間 11 回発行した。 ②校長ブログ、学校ブログ、ともに年間 200 回以上更新した。保護者の肯定的な回答 94% ③学校は、保護者や地域の人々が授業や学校行事を参観する機会を設けている 96%	H&S や HP を通して、日々の教育活動や児童の様子について、毎日発信することで、教育活動の可視化を図ることができた。今後も、教育活動を可視化することで、保護者との連携、信頼の確保につなげたい。	◎

外部人材、地域教材を活用した授業を実施	①全学年で、外部講師を招いたり、地域の教材を利用したりした授業を行う。 ・縄跳び名人 ・農家の人 ・パラスポーツ ・昔遊び ・健康教育 ・キャリア教育 ・プログラミング授業 ・郷土資料館の活用 ・PTA との連携	全学年で、警察署、オリパラ選手、税務署、環境教育、プロスポーツ選手を招いた体験授業を年間で1回以上実施した。 また、地域の商店や公園に行って学習したり、地域の教育財産を活用した授業を展開したりした。	専門家による指導や体験活動を意識的に増やしたことで、児童の学びに向かう姿勢や技術が向上した。 今後も、外部講師や地域との連携を充実させていきたい。	○
---------------------	--	--	--	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度、新たに始めた全校児童による朝のあいさつ運動、6年生による朝礼でのあいさつにより、基本的な生活習慣である「あいさつ」が自然と言えるようになった児童が増えた。今後は、あいさつの質を高め、相手意識を持たせ相手に伝わるあいさつができる児童の姿を目指したい。また、学年ごとに異学年交流を充実させたことにより、上級生が下級生を思いやる姿、下級生が上級生の話を真剣に聞く姿が見られた。同じ学校で学ぶ仲間意識や自己肯定感が高まった。次年度、さらに充実した交流となるよう、年間計画を作成して計画的に実施していく。遅刻を含め授業の開始時間や休み時間の終了時間を意識する等、児童の時間意識を高めていきたい。

学力について、学校全体として概ね区の目標値は達成できているが、学年による学力の差が生じている。1年生から基礎・基本の学力定着を徹底し、個に応じた指導と合わせて、講義形式の授業ではなく児童が主体的に学ぶ問題解決型の授業を重視し、児童が主体的に学び問題を解決する授業を行う。また、学習内容の系統性を重視し、学習のつまづきを分析して下学年に戻ってつまづきを解消したり、放課後学習教室を充実したりすることで、学校全体の学力向上に努める。

読書について、学年ごとの読書量の目標値を設定したが、目標とする数値を達成することにとらわれ過ぎて、読書本来の目的である本に親しむ、読書の良さを実感する気持ちが薄れてしまっているように感じる。次年度は、読書量の目標値を目安として設定すると共に本に親しむ機会を確保することを重視する。

体力については、運動するスペースの確保と運動する機会を大切にしたい。全校児童で取り組んだ「短縄運動旬間」「長縄旬間」「持久走旬間」は、児童の運動能力を高め、目標を達成した際の達成感を味わわせることにつながった。次年度も体力向上に向け、外部講師を招聘した授業を行う。また、本校は、児童数に対して運動できる場所が十分とは言えないので、運動する機会を確保する工夫をすると共に、体力向上に向けて体育朝会を毎月行う。

開かれた学校を意識し、保護者への情報発信や保護者が児童の学ぶ様子を参観する機会を確保できた。校長ブログを新たに立ち上げ、日々の教育活動を発信することができた。授業参観や保護者会には多くの保護者が出席したが、学校評価のアンケートの回答率は約半数という結果だった。これからも保護者の声を聞く機会を充実させたい。また、保健に関する基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着について、各家庭の一層の理解と協力をあおいでいく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度、校長がかわり新たな経営方針を示しました。保護者、地域の皆様には本校の新たな教育活動に対して前向きな視点で応援、ご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。今年度は、区の重点施策である学力向上はもちろんのこと、豊かな心の育成にも力を入れてまいりました。全校児童に

よる朝の挨拶運動や全ての学年において異学年交流を行った成果は、徐々に子どもたちの生活態度に表れています。「あたり前のことをあたり前にできる力」の育成は、指導なしに身に付くものではありません。私たち教師が核となり保護者、地域の方と連携を図ることが必要です。

千寿小学校は、旧千寿小学校の創立から数えて今年で１５０年となります。２３年前に千寿第二小学校と旧千寿小学校が統合され、５年前に新校舎が設立されて以来、児童数が年々増加しています。昔から続く千住の町の伝統と人情を大切にすると共に、時代の変化に対応できる「生きる力」を子どもたちに育ててまいります。千寿小学校は「千寿プライド」として、自分が生まれ育った町を大切にすると共に、千住の町から日本の未来を拓く人材の育成にこれからも邁進してまいります。教職員一同、子どもたちの健全育成を通して日本をさらに発展させていく所存です。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

（３）その他（学校教育活動全般について）

本校は、足立区教育委員会の指定を受け指導力向上中核校（１０年間）として、５年前より算数科の指導法の工夫改善の研究を行っている。今年度末で折り返し地点に立った。これまでの研究の成果と課題を検証し、次年度以降さらに充実した研究となるよう、研究の方向性の見直しと改善を図る。また、大規模校の利点を生かし、多様な人との関わりや共通行動、共通目標の達成と個に応じた学びを通して、今後も子どもたちの学力・体力・心の育成を図る所存である。